

## 評価結果に対する普及指導計画（活動）の改善方向

普及活動外部評価委員の皆様におかれましては、外部評価および評価委員会で時間をかけて評価をしていただき、誠にありがとうございました。

評価委員の皆様からのご意見を踏まえ、本年度及び令和4年度以降の普及指導活動の体制や方法、また、外部評価の実施方法等について改善に努めてまいります。

主な評価結果と改善方向は次のとおりです。

項目	評価結果	今後の改善方向
普及指導活動の体制	<p>○定例会やチーム会により日々の進捗管理ができています</p> <p>チーム員が情報を共有できる方法として、タブレットの活用なども検討する</p> <p>○今後、タブレット、ICTの活用や、IoP、IPM等に対する指導がますます重要となる。計画的に職員研修を進めて一層のレベルアップを図る</p> <p>○AI診断等が進んでも、普及指導員として基本的なレベルの維持が必要なので、基本的な技術研修を継続してほしい</p>	<p>○重点課題のチーム会は、課題の進捗状況に応じて適宜実施し、チーム員と情報共有をすすめる</p> <p>○クラウドの保存容量を増やし共有できる情報量を確保するとともに、積極的に利用するように促す</p> <p>○県の普及指導員研修を計画的に開催するとともに、各所属でのOJTにより指導力のレベルアップを図る</p> <p>○県の普及指導員研修において先輩普及指導員による技術伝承を行うとともに、所属でのOJTをとおして、基本的な技術習得を図る。また、JA営農指導員と共に、現場を見ながら技術習得する勉強会を開催する</p>
普及指導活動の計画	<p>○目標設定の仕方として、中長期的な目標のゴールから遡って目標を立てる。モチベーションが維持できるよう、高い目標だけでなく、少し頑張れば達成できる目標も設定する</p> <p>○今後も営農指導員と連携して、普及組織しかできないこと、普及組織だからこそできることをすすめる</p>	<p>○現状把握を十分にしたらうえて、農家や関係機関と課題を共有し、将来的なビジョンも見つめながら、達成可能な目標を設定する。また、普及計画素案の段階で目標設定について専門技術員がヒアリングを行い指導助言する</p> <p>○営農指導員と常に情報共有し、それぞれの強みを活かししながら、普及指導員のコーディネート機能を十分に発揮した活動をすすめていく</p>

項目	評価結果	今後の改善方向
普及指導活動の成果	<p>○日頃の努力で農家との信頼関係ができており、コロナ禍でも成果を上げている</p> <p>○データをうまく活用している。今後も農家全体の協力が必要なので、データ活用してない農家も意識を変えるきっかけとなるよう、フィードバックできる仕組みを考えておくこと</p> <p>○「普及活動のふりかえり」は、活動の結果だけではなく、目標を達成できなかった要因も記載すること</p>	<p>○コロナ禍で普及活動が制限されることなく継続して実施できるよう、多様な普及の手法を構築し、農家との更なる信頼関係の構築に努める</p> <p>○高齢の農家に対し紙ベースでも同時に情報提供している取組などの優良事例を収集、共有し、より多くの生産者がデータを活用できるように、生産者に応じた手段を工夫する</p> <p>○目標達成が出来なかった要因を記載する様式に見直す。その要因についてチームで分析し、今後の普及活動に活かす。また、担当者一人ひとりの役割が果たしているのかも併せて振り返る</p>
外部評価に対する意見	<p>○コロナ禍における現地調査に変わる手法として、普及活動事例を動画を活用して紹介したことで、外部評価委員の理解がすすんだ</p>	<p>○現地調査を含めた外部評価を実施できるように、コロナ禍の動向にも注視し安全に運営をすすめていく</p>
その他	<p>○女性農業者が勉強会等に参加しやすい環境づくりをすすめて欲しい</p> <p>○今後、普及の存在価値がますます重要になると思う。こうした取組により明日の農業に希望が持てる</p>	<p>○会議通知文書等の宛名を夫婦両名にするなど、女性が参加しやすくなるように工夫する</p> <p>○地域が活性化するよう、様々な工夫をしながら、地域の状況に応じた普及活動に取り組んでいく</p> <p>○地域の課題を生産者、消費者双方の視点に立ち科学的に解決し迅速に普及する</p>